

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

SD
研修会

口腔ケアの重要性を提言



講演するテレビ松本ケーブルビジョンの佐藤代表取締役会長

テレビ松本ケーブルビジョン・佐藤浩市会長が講演 闘病生活や影響を受けた政治家を語る

本学教職員の教育の質向上を目的としたSD（スタッフ・ディベロップメント）研修会が9月5日（月）本館6階601教室に、講師にテレビ松本ケーブルビジョン（松本市）の佐藤浩市代表取締役会長を迎え行われた。佐藤会長は「逆境をチャンスに―混沌とした現代への提言―」の演題で半生を語り、講演翌日以降、録画配信の聴講を含め全教職員が受講した。

佐藤会長は、ご自身の凄まじい闘病生活について語られた。2017年に食道がんが見つかり、11時間以上の手術を終えた後、主治医から「1日6回歯を磨いてください」と言われたことを明かした。闘病の中で、「口腔内を清潔に保つことこそ、がんの予防や悪化防止につながることを学んだ」とし、本年6月に政府が導入検討を発表した「国民皆歯科健診制度」の重要性を説き、本学の果たす役割にも大いに期待を寄せた。

佐藤会長はその後さらに、悪性黒色腫を発症したが、ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑教授が発見した免疫チェックポイント経路の阻害剤（オプジーボ®）の毎月の点滴静注投与と陽子線治療（高額自由診療）が奏功。その結果、佐藤会長の症例は学会発表でも注目される治療成功例となった。がんの闘病という「逆境をもとに、現在ケーブルテレビを用いた遠隔診療の実現を目指し活動している。本学もこのプロジェクトに参画予定である。

また、佐藤会長は「2人の政治家から青春時代に学んだこと」というテーマで、人生の2人の師匠についてお話をされた。政治家を志して、松本から上京し早稲田大学に進み、卒業後は田中角栄元首相や深谷隆司元通産産業大臣ら政界の要人の書生を経験、帰郷して29歳で有線テレビ放送会社の設立発起人代表になり、夢や期待をもてる会社経営を目指して走り続けてきた半生を語り、多くの教職員に感銘を与えた。

佐藤会長は、数多くの政治家や後の

首相も輩出した早稲田大学雄弁会の出身で、田中角栄元首相が現役政治家として最も活躍していた時期に、選挙運動の「前座弁士」を務めた経験を持つ。「義理を大切にし、人情を持って日本の将来をどうするべきかを考えていた」などと田中元首相の横顔を紹介した上で、学んだこととして、

▽相手の名前を覚えること
▽人生の中で義を忘れないこと
▽死に対して最大の尊厳を持つて対応すること
▽結果が思い通りにならなくても相手に礼状を出すこと、の4つを挙げた。

さらに、後に数多くの要職を歴任した深谷隆司元大臣が最も不遇だった時代に傍らで過ごした経験から、のちに社訓にも掲げた自身の人生訓「至誠通天」を得たとし、「誠をもって努力をしていけば必ず天に通じる」と話した。



田中角栄総裁の前座弁士を務めた若かりし頃の佐藤氏（左）

信州大学医学部・伊藤研一教授が 多様化する乳がん治療をテーマに特別講演

日本歯科放射線学会合同地方会

歯科放射線学講座の田口明教授が大会長を務め、日本歯科放射線学会第234回関東地方会・第41回北日本地方会第29回合同地方会が8月27日（土）、松本市内のホテルで開催され、会場はZoom配信によるハイブリッドで行われた。

特別対談では、田口大会長と朝日大学歯学部口腔病態医療学講座の勝又明敏教授が登壇し、「骨粗鬆症が口腔に与える影響―新たな画像診断研究へ―」と題してリレー形式で講演した。

田口大会長は、骨粗鬆症が歯周病の増悪と歯の喪失リスクを増加させることや、歯周病による骨粗鬆症リスクの増加と骨粗鬆症治療薬の効果抑制など、骨粗鬆症が口腔に与える影響が数多く報告されているが、これらは疫学上の検証であり、実際に歯槽骨にどのように影響しているかは検証が十分に行われていない、と課題を提起した。



左から伊藤教授、田口大会長、金田学会理事長

全日本歯科学学生交流剣道大会

本学剣道部が運営協力し

塩尻市ユメックスアリーナで開催

8月13日（土）・14日（日）

の2日間、塩尻市に新しく建設されたユメックスアリーナ（塩尻市総合体育館）において全日本歯科学学生交流剣道大会が開催されました。大会は東京歯科大学剣道部が中心となり全国の歯科大学剣道部に参加協力を呼びかけました。会場探しに難航していた同大剣道部の木住野凱太実行委員長から本学の大蔵太郎先輩（剣道部・第6学年）に相談が入り、塩尻市での開催が決まりました。

今年は、本学剣道部が東京歯科大学剣道部と交流戦を始め、50年目となる節目でもあり、我々部員一同も開催に全面的に協力しました。大会には本学、北海道大学歯学部、新潟大学歯学部、東京歯科大学、鶴見大学歯学部、広島大学歯学部、福岡歯科大学の7校33名が参加し、全日本歯科医師剣道連盟の先生方6名と本学剣道部顧問の金銅



歯科学学生交流剣道大会の参加者たち

外科学教室乳腺内分泌学分野の伊藤研一教授が「乳がん―増加している罹患者数と多様化している治療―」と題して講演した。2018年の調査によると、女性のがんの罹患者数は乳がんが5分の1を占める。40〜50代女性の悪性腫瘍による死亡では乳がんが最も多く、伊藤教授は「がんによる死亡を減少させていくためには、乳がん対策が課題であると訴えた。一方、近年は

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も導入されて治療が多様化し、「乳がん治療は局所治療（手術・放射線照射）から全身的薬物療法を重視する方向に進んでいる」と説明。早期の乳がんであれば、その10年生存率は90%以上であることから、「早期発見の重要性を啓発し、検診を推進していくことが必要で、歯科を含む他領域との連携も重要になってくる」と結んだ。

（剣道部主将 第4学年 大倉清春）

税金が2分の1。魔法のアイデアに脱帽

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島 勲

今月号は『プレジデント』10月14日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、飯島先生が加熱式たばこの自由研究を行った記事を要約して紹介します。

私はこの連載で「自由研究をしてみると、新たな発見があるのではないか」と言ったことがある。身近なものや普段慣れ親しんだものでも、改めて向き合ってみると新たな発見やアイデアをもたらしてくれるかもしれないという意味で書いたのだが、言い出した本人がやらないのはよくない。

私にとって身近なモノといえば「たばこ」である。最近になって両切りの「第三勢力」ともいうべきたばこが出てきた。たばこ屋などの専門店で手に入る「HERO」というたばこだ。このたばこ、とにかく長い。通常のたばこが7〜8センチな

ら大使と親密な付き合いが始まった。

正面から税制に向き合い、その盲点をついて顧客のために安くてたばこを提供する方法を編み出した販売元から、私は大きな刺激をもらった。

最近では、「加熱式たばこ」という新ジャンルのたばこが市場に登場し、市民権を得ている。今回のテーマは自由研究である。いい機会なので、加熱式たばこをいろいろ買って試してみた。加熱式たばこは、基本的にたばこのスティックを加熱用デバイスに挿入して吸うのが基本だ。いわば加熱用デバイスは専用のライターのようなものだけだ。

まずは、フィリップモリス社の「IQOS IRUMA」を試した。デバイスを充電器から出し、たばこスティックを挿入するとボタンの操作なしで加熱がスタートするため、扱いやすくていい。ただし、金属製で重量があるのでずっと持っているとなじ



加熱式たばこ専用エリア

重さが気になる。

加熱式たばこのスティックにも当然、たばこの葉が詰まっている。これをデバイス内の鉄板などで加熱して味わうのだが、どうしてもたばこの葉がこぼれてしまい、掃除に手間がかかるというわけていた。しかし、「IRUMA」のスティックは全体が紙で覆われており、たばこの葉が散らからない。確かに散らからないのはいいが、いわばたばこにフタがされている状態だ。これだと加熱は疎かになら

ないのだろうか。

気になってスティックを分解してみると、薄い鉄板のようなものが中に入っていた。これがたばこスティックの内部から加熱する役割を果たしているのだとわかった。普通なら「デバイスでどうゴミが出ないよう加熱するのか」と考えるところを、たばこ葉のほうに金属片を仕込んでスティック側に加熱の役割を持たせてゴミの心配を軽減させるのは、すごいアイデアだ。

JT社から定価3980円で販売されている「Ploom X」は、流線型で近未来的なデザインをしているが、プラスチック製で持ち運びやすい。私個人の意見では、デバイスそのものは「ライター」なのだから、これくらい軽くしてもらいたいものだ。この「Ploom X」は、スティックの内側を加熱する「IQOS」とは違い、外側からたばこを加熱する仕組みで、加熱技術にこだわりの姿勢があるという。使う前のスティックと使ったあとのステ

ィックを見比べてみると使う前のスティックは丸い形なのに対し、使ったあとのスティック先端は四角くなっていた。デバイスにスティックを挿入すると、四角く変形することによって空気の通りをよくし、加熱しやすくしているのだろう。

技術的な話は抜きにしても、私はこの「Ploom X」の味がいちばん好きだった。吸った感覚が今までのたばこに最も近く、違和感がない。これを持っているだけで吸える場が広がるのだから、機械を敬遠せず持ち歩いてみようと思う。

夏の自由研究と称して、短期間にさまざまなたばこに挑戦してみたが、各メーカーが工夫をこらして、興味深い。たばこにも多様性の時代が訪れたということだろうか。

愛煙家の一人として、この数年はたばこ弾圧の動きに耐えるばかりだったが、技術革新という攻めの姿勢によって、未来に光が見えてきたような気がする。

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授
笠原 浩

先生は「医者は病院の中だけでなく、人びとの生活の場にも出向いて病気を闘い、病気の発生そのものをも抑え込まなければならない。予防は治療に勝る」という考え方に共鳴して、多くの医療者が積極的に地域活動を展開していった。浅間総合病院の吉澤国雄先生、「がんば

生環境の悪さに心を痛められて、保健婦さんたちと村々をまわって生活改善運動を始めたのが、「健康長寿」に繋がっていく地域活動そもその出発点であった。

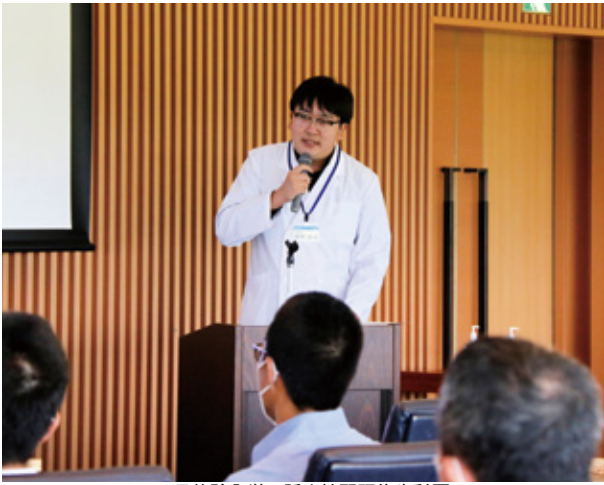
先生の「医者は病院の中だけでなく、人びとの生活の場にも出向いて病気を闘い、病気の発生そのものをも抑え込まなければならない。予防は治療に勝る」という考え方に共鳴して、多くの医療者が積極的に地域活動を展開していった。浅間総合病院の吉澤国雄先生、「がんば

善（減らそう塩分、増やそう野菜）のスローガンで野菜消費量は全国トップになった」や寒い信州の冬を暖かく過ごすためのさまざまな工夫（一部屋暖房運動など）などが全県的に広がっていった。「地域ぐるみの健康づくり」の概念が定着し、実践されて、大きな成果を挙げたのであり、「長寿日本一」は多くの人たちのそうした努力の積み重ねによって達成できたものに違いない。

少し個人的な余談をするならば、筆者は若いころから若月先生のヴ・ナロード（人民のなかへ、人民とともに）という思想に魅せられて、何度か佐久病院を訪れ「ここはサケ病院だから飲め」と先生にお酒を注がれたこともある。筆者が本学小児内科に着任した当時、まだ「ムシ菌の洪水」の最中であつたので、塩尻市内の保育園・幼稚園を巡回するなど、もっぱら地域に出

てムシ菌予防活動を展開したのも、今にして思えば、先生の影響だったのだろう。

一日体験入学で参加者から好評 植野裕司研修歯科医が体験談語る



一日体験入学で話す植野研修歯科医

高校生や保護者を迎え、本年度は11月まで計10回開催している一日体験入学の中で、大学病院補綴科の植野裕司研修歯科医による大学紹介が参加者に好評だ。入学時の成績はトップレベ

ルではなかったものの、その後一念発起して「松本歯科大学の先生方を信じて勉強した結果、第115回歯科医師国家試験で合格を手にした経験を語りながら、本学の特色や学ぶ楽しさを

わかりやすく伝えている。植野研修歯科医は、全国の歯学部6年生が受験する予備校の模擬試験を分析した結果などを基に、今年実施された国家試験では、自身を含め本学の何人もの学生が全国トップレベルの成績を収めていたことを説明した。その背景には本学独自の教育システムがあるとし、▽工夫された講義▽講義終了直後の質問対応▽先生たちが質問を待ち構えてくれる「オフィスアワー」▽知識の定着を確認できる「ウィークリーテスト」▽成績低迷気味の学生への手厚い対応▽デイリーテストの実施、などを例に挙げた。

植野研修歯科医は「先生方を信じて勉強したら3年生あたりから爆発的に成績が伸び始めた」と経験を率直に語り、学生同士も互いに高め合おうと立ち

上げた勉強会「さつき塾」の取り組みも紹介しながら、「松本歯科大学は無限の可能性を開花させる学校です。入学式でお待ちしています」と話した。7、8月に一日体験入学に参

第3学年 隣接医学に「精神医学」開講

歯科医師も患者に理解深めて

本学では隣接医学として眼科学、皮膚科学および耳鼻いんこう科学が開講されていたが、本年度より新たに精神医学の講義が始められた。最近の調査によれば外来・入院合わせて年間420万人が罹患しており、単純に計算すれば国民の30人に1人となる。神経疾患の患者さんがごく身近にいることになり、かなりの頻度で歯科診療の現場

でもお目にかかることになる。したがって、歯科医も精神疾患について一定程度の理解が必要であることを意味している。

精神疾患は、脳の働きの変化によって、感情や行動などに著しいかたよりが見られる状態で、気分落ち込みや幻覚・妄想、さらには思考形式の障害など心身に様々な症状が出る疾患である。とりわけ社会の複雑化



精神医学を講義する筆者

（特任教授 石川敏二）

に伴って、うつ病や不安神経症などの患者が増加しており、一方で高齢化に伴い認知症も著しく増加している。これは今後益々診療現場で見かけることが多くなることを意味している。

精神疾患では患者本人もそうであるが、訴える症状が理解できず、診療に当たる歯科医師が戸惑うことが多い。そこで4コマという限られた時間であるが、よく見られる疾患の特徴的症状を解説し、患者に対応できるよう講義を進める。

1945年（敗戦の年）に東大から佐久病院に赴任された若月俊一先生（故人）が、戦後の混乱期の中で信州の農村の衛

信州は「長寿の里」

冬は積雪も多い。食物もそれほど豊富ではなく、味噌やしょうばい漬物が好きだ。寒冷で雪が積もる山の多い土地というところ、青森、岩手、秋田などがあるが、これらの県はいずれも平均寿命がランキングのワースト・グループだ。長野県には「海がない」という悪条件も重なる。「それなのになぜ？」これは筆者が全国各地で健康長寿の講演をした後で必ず出る質問である。「信州人はムシ（イナゴ、ハチの子、ザザムシ、カイコの蛹など）を食べるから」と考えた学者もいたようだが、筆者は「カギは地域保健の充実にある」と答えている。

病院だより vol.44

歯科放射線科
最新超音波装置

近年の口腔顎顔面領域における画像診断装置の進化は目覚ましい。

以前は1列CTが標準であったが、現在は高速多列（16～320列）ヘリカルCTが普及している。また、0.5テスラ以下のMRI装置が口腔顎顔面領域で用いられていたが、現在は1.5～3.0テスラ以下のMRI装置が主流となっている。加えて、SPECT/CTやP

射線に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」を規定して、2020年より実施した。MRIは被ばくの問題はないが、高磁場の磁石であるため、撮影で



新型超音波装置で診察する田口教授

ET/CT等の画像検査も口腔顎顔面領域の画像診断で普及している。このように歯科放射線科医が扱う画像診断機器は、急速に進化している。

一方でCTが高速・多列化するに従って、被ばく線量が問題となってきた。一般の歯科医師が用いる歯科用コーンビームCTも同様である。

医師・歯科医師は被ばくの知識に乏しいため、厚生労働省は「診療用放射線に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」を規定して、2020年より実施した。MRIは被ばくの問題はないが、高磁場の磁石であるため、撮影で

USは超音波の反射・透過を画像化するものであり、病変の形態や内部性状を、CTやMRIよりも高解像度で評価できる。当初からドプラ現象を利用したカラードプラで血流を評価できたが、その後、微細な血流信号強度を評価できるパワードプラが装備された。

当科に本年度、US装置LOGIQ P10（ゼネラル・エレクトロニクス社製）が導入された。この装置は病変の硬さを評価できるElastographyも搭載されており、病変のみでなく、顎関節症患者等の咀嚼筋の状態も経時的に評価できる優れた特性を持つ装置である。

US装置は端子（プローブ）を皮膚、あるいは粘膜表面にあてて検査するが、LOGIQ P10では、口腔内全体を評価できる最小端子が装備されており、これまで不可能だった、口腔内全域の良性および悪性病変を直接評価可能となった。解像度は、CTやMRIよりも遥かに高いため、小唾液腺までも



口腔内を評価できる最小端子

1cm以上の顎部転移リンパ節しか評価できないPET/CTに対して、超音波検査では3mm前後から評価可能である。顎関節門板外側転位も評価できるので、MRI検査が必要な患者のスクリーニングに使用可能である。コンパクト化・高画質化により、従来不可能であった検査がLOGIQ P10では可能となっていることから、積極的に活用を図っていききたい。

作業部会は、矢島安朝病院長が、「地域に密着した質の高い病診連携を検討していこう」と4月に発足させた地域医療連携委員会の下部組織の一つで、多職種約30人で構成する。部会



作業部会での会議

次もまた来院したくなる病院をめぐし患者サービス向上作業部会が活動

本学病院は、院内に「患者サービス向上作業部会」を立ち上げた。次世代を担う中堅医局員やパラメディカル、事務職員などで構成するメンバーが自由に意見を交わして課題を乗り越え、患者が「次もまた来院したくなる病院」を目指すという初の取り組みで、年度末を目前に病院ホームページの改善骨子案づくりと、診療科別のパンフレットの一部を完成させることを目標に、活発な議論を重ねている。

9月5日（月）には3回目の全体会議を開いた。各班が分担している検討課題に関して班長が行った発表を踏まえて意見を交わし、先行して発行する予定のインプラント科のパンフレッ

本年度の長野県小児保健研究会
ヤングケアラーへの支援を考える



講演後の活発な質疑応答

2022年度の長野県小児保健研究会が9月10日（土）、本学図書館で開催された。一般発表と総会後、「ヤングケアラーへの支援を考える」のテーマで市民公開シンポジウムを開催し、小児保健の場で重要なヤングケアラー問題の現状と課題、支援の方法などを学んだ。

特別講演では、立正大学社会福祉学部教授の森田久美子先生に「求められるヤングケアラーへの支援」について講演をしていただいた。講演では、病気や障害のある家族の世話をするヤングケアラーと呼ばれる子どもを支援する取り組みについて紹介された。また、2021年4月に改正された「子供・若者育成支援推進大綱」では、ヤングケアラーを「一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に担っている児童」であり、「困難を有する子供・若者とその家族」に位置づけて、国として対応する方針を掲げた。厚生労働省は支援策をとりまとめ、長野県の自治体においては先駆的な支援

の取り組みを始めていることが紹介された。ヤングケアラーへの社会的対応の必要性が議論される社会的背景、ヤングケアラーの実態等を注視し、ヤングケアラーが健やかに育つことを支える社会の実現に向けて、地域にいる私たちにできることは何かを問われた。

講演では、長野県教育委員会事務局南信教育事務所学校教育課のスクールソーシャルワーカー（SSW）スーパードバイザーで社会福祉士の弓田香織先生が、「知っておきたい身近なヤングケアラー」長野県SSWからの報告」と題してお話しいただいた。2021年秋に県教育委員会により実施されたヤングケアラー調査から、本県にもヤングケアラーが多数存在することが報告され、地域ごとに特徴を捉えた対策が必要なることを示唆すると結論づけられた。また、調査結果及びSSWとして

本学が推奨するよく噛んで食べることを促す食事「カムカムメニュー」が、本年度から介護付き有料老人ホーム「イリーゼ」で提供が始まり、入居者に好評を得ている。「イリーゼ」を経営する都内のHITOWAケアサービス株式会社は全国100カ所以上で介護施設を展開しており、来年からは全国的にカムカムメニューを提供する予定。

「カムカムメニュー」は、食

本学推奨の「カムカムメニュー」
有料老人ホームでの提供始まる

本学が推奨するよく噛んで食べることで口の動きが活発になり、口の健康が維持され、食べやすいものや栄養に関する意識も深まるなど、さまざまな効果も期待できる食事で、本学総合歯科医学研究所の増田裕次教授が中心となって考案、2011年に本学の学生食堂で初めて提供された。その後、増田教授や東京医科歯科大学大学院の松尾浩一郎教授、東京大学高齢社会総合研究機構の飯島勝矢教授な

べることから始まる健康増進への一連の流れをまとめた「カムカム健康プログラム」も構築され、全国的な関心が高まり、高まるようになった。そうした取り組みに「イリーゼ」が高い関心を寄せた。「カムカムメニュー」は本学が登録している商標であり、すでに本学とは商標使用許諾契約も締結、着々と準備を進めている。

本格導入に先立ち試験的に提



イリーゼ武蔵藤沢で提供されたカムカムメニュー

も、長野県小児保健協会が開催することも健康週間を担当予定であり、「大切なこどもの歯を守るう」をテーマに10月3日（月）、朝日村のあさひ保育園で講演と歯科指導を行う。

（小児歯科学講座 教授 大須賀直人）

子供が始まっているのは、埼玉県入間市にある介護付有料老人ホーム「イリーゼ武蔵藤沢」で、3月から毎月1回、昼食として提供されている。メニューは増田教授らが監修し、刻みたくあんをソースに加えた「サワラの菜種焼き」や、角切りリンゴに特徴のある「かぼちゃとリンゴのサラダ」など、毎回高齢者向けにアレンジした内容となっている。増田教授もたびたび施設を訪れ、入居者にメニューの狙いやしっかりと噛むことが健康の維持や増進につながることを説明し、入居者の様子を調査したりしている。

増田教授は「皆さんに好評で、健康や栄養について考えてもらい、おいしさも感じていただく機会になっている」とし、「取り組みに協力しながら、噛むことが健康につながることをしっかりと実証していきたい」と話している。

川原一郎教授が大会長 信州公衆衛生学会総会を 本学でハイブリッド開催



川原大会長から感謝状を受け取る百瀬医師（左）

第16回信州公衆衛生学会総会が8月27日（土）、本学図書館2階学生ホールを拠点会場に、発表者と一部関係者以外はインターネットを介して各地から参加するハイブリッド形式で開かれた。松本歯科大学病院の川原一郎教授が大会長を務め、「つくる健康 まもる社会」をテーマとし、参加者から17演題の研究成果や実践例が発表された。県内で公衆衛生や生活習慣病、保健行動、感染症、口腔保健に関わる研究者や医療関係者、行政担当者などが多数参加した。川原教授はこの中で、「歯科健診からみえる生活習慣病」と題して大会長講演を行った。川原教授は、厚生労働省の歯科疾患実態調査の結果や健診制度などを解説した上で「歯科健診は生活習慣改善の動機づけにもなる」とした。一方で二次予防（早期発見、早期治療）を目的とする現行の一般健診の任意性の高さなどを例に挙げて「一次

予防（健康増進）の推進が、これからの課題となっている」とどと語った。

特別講演では、塩尻市広丘野村の広仁堂医院院長・百瀬篤医師が「行政管理栄養士による国保特定健診後の重症化予防への支援」指導から支援へ 中年独身男性症例を中心に」と題

し、自身が市内の多職種と連携して試験的に取り組んでいる患者の重症化予防支援事業について発表した。百瀬医師は、2020年から医療機関での個別健診に一本化された市の国民健康保険の特定健診を受診者の中から市が選んだり、百瀬医師の診療所で治療中でもある特定健診

受診者の中から選んだりした糖尿病病患者者13人を対象に、市管理栄養士の無料栄養指導を端緒に、保健、医療、福祉などの専門職による総合的な支援に取り組んでいる。市管理栄養士が患者の生活状況や精神状態などきめ細かな情報を把握したことで関係者が速やかに連携、有効な

対応につなげられた事例などを紹介した。「周囲のサポート体制のない方にとってこの事業は、医療だけでなく、生活・精神的なサポートになりうる。特定健診が最も必要な人への受診の動機付けになる可能性がある」と述べ、参加者の注目を集めていた。

自らの能力の向上をはかれ

大学院秋季入学生3人が学位取得



学位記を取得した3人

9月12日（月）、大学院秋季入学生の三君が、めでたく年限内の学位（博士（歯学））取得を果たし、学位授与に臨んだ。何治録君、松井龍一君、馬向涛君である。論文のタイトルは、それぞれ「マクロファージはTreg陽性細胞を活性化し骨再生を促進する」、「間葉系幹細胞の骨芽細胞分化における細胞老化の影響」、「機能的身体

独立性との関連における八十歳代および百歳以上のヒト口腔および腸内細菌叢の比較」である。若き博士らには高度歯科医療実践者として、あるいは研究者として、存分に力を発揮することを期待したい。それぞれに与えられた場で、これまで得られた知識や技能を拡張し発展させ、自らの能力の向上をはかるとともに先達を乗り越え、社会

的にはどのようなものであろうか。研究の継続か、働く場を求めるのか、あるいは人生を考える時間をとりたいのか。某君には、優先事項が「結婚」とも聞く。いずれにせよ、「若さ」という財産をどのように使うのか、関心をもって見守りたい。

おめでとうございます！

なお、大学院入学者選抜試験は左記の日程で行われます。

I期 11月2日（水）

II期 2023年3月1日（水）

（総合歯科学部研究科長 平岡行博）

東京医科歯科大学 助教 大杉勇人先生

「Bioinformatics解析で紐解く」

光エネルギーの生物学的効果」

「口腔内細菌叢破綻の全身への影響」

片桐さやか先生

7月29日（金）に、東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科歯周病学分野助教・大杉勇人先生と、准教授・片桐さやか先生による第405・406回大学院セミナーが開催された。

まず、大杉先生による「Bioinformatics解析で紐解く光エネルギーの生物学的効果」の講演では、歯周組織のうちに骨組織に着目し、動物モデルを用いて、骨切削に関してEnTAGレーザー照射と通常の回転切削器具による切削を比較するとレーザーの方が早い治癒を示し、骨組織における遺伝子の網羅解析により、レーザーの

培養初代細胞でのosteoblastの石灰化、また石灰化したosteogenic cellへの影響についても評価し、光エネルギーによるメチレーションの可能性を示した。

また、海外でよく使用されているタイオードレーザー、中でもコールドレーザーの研究も紹介され、この光照射そのものが、photobiomodulation効果を持つこと、非侵襲的に歯周病の進

行を抑制できる可能性を示された。

大杉先生は、既に臨床的に応用されているレーザーの解明されていない種々の作用機序について基礎研究からエビデンスを構築し、歯周病だけでなくさまざまな疾患への新たな治療法の開発につながる研究を紹介された。

次に、片桐先生による「口腔内細菌叢破綻の全身への影響」の講演は、自身の経歴に重ねて行ってきた研究結果を紹介された。

まず、大学院の博士課程で歯周病と糖尿病に関する臨床研究を行い、現在の糖尿病学会のガイドラインに引用されている、歯周病治療により2型糖尿病患者の血糖コントロールが改善することを証明し、大学院卒業後は、糖尿病に関する臨床研究に

加え、歯周病と妊娠・出産に関する臨床研究を行い、口腔内からPorphyromonas gingivalisが検出された妊婦では切迫早産や早産のリスクが上昇することが明らかになり、より安全な出産に向けて、口腔内を健康に保つ重要性を示した。

さらに口腔と全身の関わりをメカニズムを説明すべく、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターへ留学し、糖尿病における創傷治癒遅延に関する研究を

行い、臨床研究と基礎研究の融合のさせ方など口腔科学研究を行うにあたっての礎を築かれた。

現在は、口腔を一つの臓器としてとらえ、各世代別で社会問題となっている様々な代謝性疾患に注目し、エネルギー代謝に重要な、肝臓・脂肪・骨格筋とのクロストークを解明する研究を行い、臓器別および全世代をターゲットとした臨床および基礎研究の両面のエビデンスを構築、新たな代謝異常の予防戦略の策定につながる研究を目指していることを報告された。

両講演とも臨床的、学術的な重要性は極めて高いもので、新進気鋭のお二人の研究者のご発展が大いに期待されるものであった。講演後には満員の創立30年記念棟3階大会議室（常念岳の間）で活発な質問、討論が行われた。

（歯科保存講座 教授 吉成伸志）

行を抑制できる可能性を示された。

大杉先生は、既に臨床的に応用されているレーザーの解明されていない種々の作用機序について基礎研究からエビデンスを構築し、歯周病だけでなくさまざまな疾患への新たな治療法の開発につながる研究を紹介された。

次に、片桐先生による「口腔内細菌叢破綻の全身への影響」の講演は、自身の経歴に重ねて行ってきた研究結果を紹介された。

まず、大学院の博士課程で歯周病と糖尿病に関する臨床研究を行い、現在の糖尿病学会のガイドラインに引用されている、歯周病治療により2型糖尿病患者の血糖コントロールが改善することを証明し、大学院卒業後は、糖尿病に関する臨床研究に

加え、歯周病と妊娠・出産に関する臨床研究を行い、口腔内からPorphyromonas gingivalisが検出された妊婦では切迫早産や早産のリスクが上昇することが明らかになり、より安全な出産に向けて、口腔内を健康に保つ重要性を示した。

さらに口腔と全身の関わりをメカニズムを説明すべく、ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターへ留学し、糖尿病における創傷治癒遅延に関する研究を

行い、臨床研究と基礎研究の融合のさせ方など口腔科学研究を行うにあたっての礎を築かれた。

現在は、口腔を一つの臓器としてとらえ、各世代別で社会問題となっている様々な代謝性疾患に注目し、エネルギー代謝に重要な、肝臓・脂肪・骨格筋とのクロストークを解明する研究を行い、臓器別および全世代をターゲットとした臨床および基礎研究の両面のエビデンスを構築、新たな代謝異常の予防戦略の策定につながる研究を目指していることを報告された。

両講演とも臨床的、学術的な重要性は極めて高いもので、新進気鋭のお二人の研究者のご発展が大いに期待されるものであった。講演後には満員の創立30年記念棟3階大会議室（常念岳の間）で活発な質問、討論が行われた。

（歯科保存講座 教授 吉成伸志）

行い、臨床研究と基礎研究の融合のさせ方など口腔科学研究を行うにあたっての礎を築かれた。

現在は、口腔を一つの臓器としてとらえ、各世代別で社会問題となっている様々な代謝性疾患に注目し、エネルギー代謝に重要な、肝臓・脂肪・骨格筋とのクロストークを解明する研究を行い、臓器別および全世代をターゲットとした臨床および基礎研究の両面のエビデンスを構築、新たな代謝異常の予防戦略の策定につながる研究を目指していることを報告された。

両講演とも臨床的、学術的な重要性は極めて高いもので、新進気鋭のお二人の研究者のご発展が大いに期待されるものであった。講演後には満員の創立30年記念棟3階大会議室（常念岳の間）で活発な質問、討論が行われた。

（歯科保存講座 教授 吉成伸志）

行い、臨床研究と基礎研究の融合のさせ方など口腔科学研究を行うにあたっての礎を築かれた。

現在は、口腔を一つの臓器としてとらえ、各世代別で社会問題となっている様々な代謝性疾患に注目し、エネルギー代謝に重要な、肝臓・脂肪・骨格筋とのクロストークを解明する研究を行い、臓器別および全世代をターゲットとした臨床および基礎研究の両面のエビデンスを構築、新たな代謝異常の予防戦略の策定につながる研究を目指していることを報告された。

両講演とも臨床的、学術的な重要性は極めて高いもので、新進気鋭のお二人の研究者のご発展が大いに期待されるものであった。講演後には満員の創立30年記念棟3階大会議室（常念岳の間）で活発な質問、討論が行われた。

（歯科保存講座 教授 吉成伸志）

行い、臨床研究と基礎研究の融合のさせ方など口腔科学研究を行うにあたっての礎を築かれた。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

人事異動

（兼務）相馬 啓子 4月1日付

（採用）丸山 敏康 9月1日付

上條 紀子 9月1日付

鶴田あゆみ 9月5日付

保科 加代 9月5日付

（兼務）相馬 啓子 4月1日付

（採用）丸山 敏康 9月1日付

上條 紀子 9月1日付

鶴田あゆみ 9月5日付

保科 加代 9月5日付

お知らせ

日本補綴歯科学会東海支部学術大会を10月22・23日に開催

本学を主会場にして完全Web方式で開催される。大会長は

歯科補綴学講座の樋口大輔教授、実行委員長は富士岳忠講師、準備委員長は吉田裕哉講師が務める。生涯学習公開セミナーでは、地域連携歯科学講座の配島弘之教授らが「歯科訪問診療における補綴歯科診療から摂食嚥下リハビリテーションまで」と題して講演を予定している。

2日（日）一日体験入学（歯学部）

3日（月）11日（火）登院試験（歯学部2学年）

12日（水）衛生学院戴帽式

13日（木）学校推薦型選抜①

13日（木）24日（月）指定校・公募制Ⅰ（衛生学院）

14日（金）学校推薦型選抜①

14日（金）指定校・公募制Ⅰ（衛生学院）

14日（金）防火・防災訓練（歯学部生・衛生学）

26日（水）大学院発表会

29日（土）総合型選抜（Ⅰ）・編入学選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

29日（土）留学生選抜（Ⅰ）

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

総合型選抜（Ⅰ期）

試験日 10月29日（土）

出願期間 10月11日（火）～10月26日（水）

一日体験入学

① 10月2日（日） ② 11月6日（日）

※10・11月開催分のみ掲載

開催時間 9:30～15:00（受付 9:15～）

●キャンパスツアー ●ランチ体験

●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など

※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210

松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp